

○事業所名	ごえん			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職員が常勤で在籍しており、非常勤でも専門職を配置している	・ 職員の資質向上を図る為の専門職員による研修 ・ 個々の療育、対応を見直す為のミーティングやカンファレンス	・ 専門職員の自己研鑽を推進しており、それぞれの職能団体に加入するよう進めている。また、専門職以外にも療育に必要な知識量やスキルをアップさせられるよう研修への参加を推進。正職員に関しては研修費を会社が負担する制度も設けた。
2	送迎あり	・ 児童の特性によって、送迎車に運転手以外の職員を配置	・ 義務ではないものの推進されている、就学児以降のジュニアシートの使用も行っている。
3	同法人内で個別療育、保育所等訪問を行っており、高齢者施設もある	・ 通所している中や保護者とのお話の中で、ごえんでは対応が難しい課題が出て来た際に、個別療育や保育所等訪問の紹介を行っている。	・ 解決できないことや課題に対する対応が不明な点があった際に、自事業所以外の同法人内の専門職員にアドバイスを求める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流をする機会が少ない	・ 地域との繋がりが弱い	・ 地域のボランティアの方を招いたり、同法人内にある高齢者施設との交流イベント行ったりするなど、取り組みは行っている。
2	保護者同士の交流の為の場を設けることができていない	・ 保護者を含めた研修の実施や交流の場を設ける	・ 保護者を含めた研修の実施や交流の場を設ける。
3	療育の為の道具を、利用者全ての年齢や体格に合わせては揃えられていない	・ 幼児から高校生まで在籍しており、全ての利用児の体格に合う物を全て揃えることが困難	・ 高さの変えられる机や椅子を購入したものの、その都度高さを変えるのは大変だと判明。 ・ 危険に繋がらない配置調整や、片付ける場所の確保が必要。